

平成27年

# 9月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

(果樹) 東予地方局産業振興課産地育成室

(畜産) 東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0898) 68-7322(代)

TEL (0897) 57-9122

## 【作物】

### 1 水管理

これからの管理で、最も重要なのが水管理です。根の活力維持に努め、品質の向上に努めましょう。

#### (1) 出穂期～出穂期以降

浅水管理(2～3cm)をします。異常高温が続くような時は、かけ流し灌水で地温を下げ、根傷みを防ぎます。

#### (2) 登熟期

灌水して土壌に水分を与えたら、水は溜めずに、足跡に水がたまっている程度(飽水状態)にします。

#### (3) 落水期

落水期は収穫前7日程度としますが、収穫作業に支障のない程度に刈り取り直前まで走り水灌水で土壌水分を保ちます。

### 2 病害虫防除

#### (1) 斑点米カメムシ類、特にミナミアオカメムシによる被害が大きいので、防除を徹底して下さい。

スタークル顆粒水溶剤2,000倍(収穫7日前まで)を使用する場合は、出穂後10～15日頃に散布して下さい。多発時には、1回目防除の7～10日後に追加防除をして下さい。

スタークル粒剤3kg/10a(収穫7日前まで)を使用する場合は、出穂後7～10日頃に散布して下さい。スタークル剤はウンカ類、ツマグロヨコバイにも有効です。



ミナミアオカメムシ(成虫)  
(体長12～16mm)

#### (2) いもち病が発生している場合は、速やかにブラシフロアブル1,000倍(収穫7日前まで)で応急防除をして下さい。

### 3 収穫準備

コンバイン、乾燥機等の点検を実施して、計画的な作業を行って下さい。

#### 【品種別収穫適期基準】

区分	短期あきたこまち	ヒノヒカリ	にこまる
出穂後積算温度(℃)	900～1,050	900～1,100	1,000～1,150
最長稈黄変率(%)	85	85	85～90
出穂後日数(日)	33～37	40～46	42～48

<真鍋>

## 【野菜】

### 1 サトイモ

#### (1) 出荷計画

マルチ栽培の芋は、掘り取り調査の結果等を参考に計画的に収穫して下さい。

#### (2) 水管理と追肥

##### ア マルチ栽培

緩効性肥料を使用した場合基本的に追肥は不要ですが、基肥に「EXスミカエース14」(殻無し肥料)又はおおなか時に「里芋おおなか用SRコート991」を施用して10月以降に掘り取る圃場は、8月下旬に追肥します。化成追肥体系での最終追肥は、遅くとも収穫の1ヶ月前には終えて下さい。

##### イ 露地栽培

9月は孫芋の肥大充実期であるため、土壌水分を保持する灌水が重要です。

肥料の吸収量は、次第に低下しますので過剰施肥は控えて下さい。

#### (3) ヨトウムシ防除

ヨトウムシが多発する時期です。発生密度の低い時期に薬剤を散布して下さい。

### 2 ヤマノイモ

9月下旬までは芋の肥大期です。極端な乾燥や湿潤にあうと芋が2次生長を起こし形状が乱れることがあるので、水管理には最後まで注意し、適湿を保ちます。

#### (1) 病害対策

炭そ病の発病が懸念される時期です。決して枯れあがることのないように予防散布に努めて下さい。なお、強風や大雨の後及び炭そ病発生圃場では、ラビライト水和剤400倍を一回散布して下さい。

#### (2) 害虫対策

ハダニによる吸汁及びヨトウムシやナガイモコガ等の食害による葉面積の極端な縮小は収量低下につながります。圃場を巡回し、適期防除に努めて下さい。

※大雨の際に圃場内に滞水を起こすことがないよう、排水路の点検をして下さい。

<越智>

## 【果樹】

### 1 摘果

#### (1) 温州みかん

S～M果を主とした中玉均質生産を目指し、樹ごとの着果量に応じた摘果を進めて下さい。

着果が多い樹や小玉傾向の樹から摘果を始めます。摘果する果実は、下垂

していない上向き果や軸太果、内成り・すそ成りの小玉果、傷果、大玉果などです。

着果量が中程度でこれまで着果負担をかけてきた樹でも、果皮表面が滑らかになり光沢をもちだしたら摘果の適期です。果梗が太く果皮の粗い果実や肥大不良の極小果などを摘果し、葉果比を20～25程度に調整します。

着果量が少なくこれまで摘果を控えていた樹では、大玉果や傷果を樹上選果して下さい。

#### (2) 中晩かん

内成り・裾成りの見残しを中心に日焼け果、果梗枝の太い極大果、小玉果、傷果を摘果して下さい。

### 2 台風対策

被害を最小限にするよう、事前対策に努めて下さい。

#### (1) 排水対策

事前に排水路の点検・整備を行い、土砂などは排除しておきます。

#### (2) 強風対策

幼木や高接樹では、強風で枝裂けや倒伏のないよう、支柱を立てて結束して下さい。成木も、支柱への主枝誘引や枝つりなどで樹体を補強して下さい。

#### (3) 病害対策

かんきつかいよう病は、降雨や強風によって被害が広がる恐れがあるので、罹病葉や果実を除去しておきます。

また、黒点病、褐色腐敗病などの病害も雨や風により発生が助長されるので、台風通過前後に殺菌剤を散布できるよう、準備しておいて下さい。

<大西>

## 【花き・花木】

### 1 アネモネ

#### (1) 土壌消毒の実施

排水・保水性が良く、日当たり・風通しの良いほ場を選定します。バスアミド微粒剤20～30kg/10aを均一に散布して土壌と混和します。散水後、すぐにビニール被覆し、10～14日後にガス抜きを行います。

#### (2) 苦土石灰と元肥の施用

苦土石灰100～120kg/10a、ロング4-2-4(70kg/10a)、ようりん60kg/10aを施用します。

#### (3) 畦立て

畦幅120～130cm、畦高15cmが基準です。

### 2 ラナンキュラス

#### (1) 播種床の準備

本圃10a当たり100㎡の播種床を用意します。

#### (2) 元肥(播種床)の施用

苦土石灰10～12kg、石灰窒素6kg、ようりん6kgを施用します。

### 3 シキミ

秋芽伸長期です。新芽に被害を出さないよう適期防除して下さい。黒しみ斑点病にはペンコゼブ600倍、アブラムシ類・ゲンバイムシ類、ハマキムシ類にはスミチオン乳剤1,000倍、サビダニ類にはコロマイト乳剤2,000倍を散布します。



サビダニの被害葉と新梢 ハマキムシの被害葉(2～3枚綴る)と幼虫(食害)  
<日野>

## 【畜産】

### 1 暑熱対策の継続

日中は依然として家畜の適温域(牛15℃、豚20℃、鶏24℃)を大きく超える日が続くため、暑熱対策は継続しましょう。なお、対策方法については「7月号」を参照して下さい。

朝晩に作業者が涼しく感じるようになると、夜間に送風機を止めてしまいがちですが、体熱の放散が不十分となり、日中に上昇した体温が夜間に正常値まで下がらないことがあるので、中旬頃までは家畜の様子や天気予報で最低気温を確認しながら、夜間も送風機を運転しましょう。

### 2 秋ハエ対策

秋ハエは、春ハエよりも薬剤が効き難いものが多くなります。これは同じ薬剤の連用により、生き残った幼虫がその薬剤の耐性を獲得するからです。

薬剤の中でもIGR系(脱皮阻害剤:ネボレックス、デメリン)等は、ホルモン物質に関与して脱皮を抑える働きのため耐性ができにくいので、うまく組み合わせて使いましょう。

<中谷>